

東京都「ワーケーションやブレジャー等の活用による働き方改革（観光庁）」
議事要旨

（開催要領）

1. 開催日時：令和2年12月8日（火）第2部 15:00～17:00
2. 場所：東京都 TKP 新橋カンファレンスセンター
3. 登壇者：
国土交通省観光庁 審議官 五十嵐徹人
山梨大学大学院総合研究部 教授 日本国際観光学会 ワーケーション研究部会
部会長 田中敦
日本航空株式会社 人財本部人財戦略部ワークスタイル変革推進グループ
アシスタントマネジャー 東原祥匡
和歌山県企画政策局情報政策課 課長 桐明祐治 ※ワーケーション自治体協議会
国土交通省観光庁 参事官 平泉洋

（プログラム）

1. 開会挨拶及び施策説明 「新たな旅のスタイル」の普及について 五十嵐徹人
2. 講演①「日本型ワーケーションの考え方と可能性」田中敦
3. 講演②「日本航空におけるワーケーションの取組」東原祥匡
4. 講演③「和歌山県におけるワーケーションの取組」桐明祐治
5. 閉会挨拶 平泉洋

* 敬称略・順不同

1. 開会挨拶及び施策説明

観光庁では、休暇の取得促進や分散化に資するワーケーションやブレジャー等を、感染リスクを軽減しつつ、旅行需要の喚起につながり、且つ、働き方改革とも合致した「新たな旅のスタイル」と位置付けて、その普及に向けた取組みを行っております。今後の取組みの方向性としては、大きく3つございます。1つ目は、「国民全体の機運醸成」です。民間の調査によると、ワーケーションの認知は7割を超えているものの、実際に導入済み、もしくは導入予定の企業は1割程度であることから、企業を含めて、広く国民全体にその目的や意義などを周知するための情報発信を行ってまいります。2つ目は、「企業および地域の環境整備」です。企業に対しては、制度導入に向けた支援を、地域に対しては、ソフト、ハード両面における受入体制整備の支援を行ってまいります。3つ目は、「企業・地域の関係性構築」です。企業と地域、双方のマッチングを通じて、継続的な関係性を構築することにより、企業、地域双方の課題解決の支援を行ってまいります。また今年度の取組の1つである「企

業を対象としたモデル事業」において、10 社程度にご協力いただき、実施の効果や導入に向けた課題、可能性などについての検証を行う予定です。本日は、日本型ワーケーションの可能性についての講演をはじめ、企業や地域の取り組み事例などをご紹介しますので、今後のワーケーションの取り組みをご検討いただくきっかけとしていただければ幸いです。

2. 講演①「日本型ワーケーションの考え方と可能性」

ワーケーションは、Work と Vacation を組み合わせた造語で、テレワークを活用し、リゾート地や観光地などで余暇を楽しみつつ仕事を行うことと紹介されることが多いです。

ワーケーションは本来、働く人個人を中心に、休暇と仕事を織り交ぜて行う性質のものですが、国内では、通常の勤務場所以外で行うオフサイト会議や研修、合宿などを含めて使われる傾向があり、こうしたものを総称して、日本型ワーケーションと呼ぶこととしています。

ワーケーションは①企業 ②従業員 ③受入れ側である地域 ④関連事業者 の4つのステークホルダーが存在しますが、それぞれの期待が異なり、同床異夢の状態となつてしまっていますが、あくまで主役は実際にワーケーションを行う従業員です。今後、さまざまな人たちの働き方改革を後押しし、ダイバースでインクルーシブな世界を作っていく。こうした意味で、これからワーケーションがどんどん発展していくことを願っております。

3. 講演②「日本航空におけるワーケーションの取組」

弊社では社員一人ひとりがいきいきと働ける環境を目指し、働き方改革を2015年頃より始めており、時間と場所に捉われない柔軟性のある働き方を推進してきました。

その一環として休暇取得促進の観点から、また、その土地でしか体験できない経験から感性を養い自己成長に繋げられる制度として、2017年より「ワーケーション」を、2019年より「ブレジャー」を導入しました。浸透施策として、ワークショップを実施や、地域でのモニターツアーの実施などを行ってきました。本年度は、感染予防対策をしながら、地域とコラボすることで共創し、社会課題とも向き合いながら、自身の働き方・休み方を考え検証する、ワーケーションをツールとした、今後の移住や兼業・副業といったニーズの高まりを意識した企画にもチャレンジしてまいります。

4. 講演③「和歌山県におけるワーケーションの取組」

和歌山県では全国の自治体に先駆けて、平成29年度よりワーケーションの取り組みを進めてきました。企業様にとってはイノベーションのチャンス、また個人にとってはモチベーションの向上、エデュケーション、自己研さんの機会、また地域にとっても単純な消費拡大のみならず、さまざまな地域課題の解決に向けて、コラボレーションをさせていただきたいと考えています。Work+さまざまなation というものが、和歌山のワーケーションの魅力であり、取り組みの内容です。ちなみに、和歌山の強みはIT企業の集積が進んでいること、恵まれた観光資源があるところです。一方で課題は、航空運賃が高い点があげられるのです

が、日本航空さんにご協力いただいているところです。さまざまな観点から、将来的にも和歌山は面白いことがたくさん起こってきますので、ご注目をいただき、和歌山にいらした際にはワーケーションを体験いただきたいと思います。

5. 閉会挨拶

本日のシンポジウムでもご紹介がありました通り、コロナ禍における「新たな働き方」や「地域活性化の推進」といった観点からも、非常に期待が大きいテーマと考えております。ワーケーションの実施形態は画一的なものではなく、休暇型や業務型といったさまざまな選択肢があることは、本日のシンポジウムを通じて、ご理解いただけたことと思います。それぞれの企業のニーズや目的に合った形態で取り組んでいただき、経営課題の解決はもちろん、地域との継続的な関係性を構築いただくことで、地域の活性化にもお力添えをいただきましたら幸いです。

観光庁としましても、制度導入にあたっての環境整備につきましては、各種施策を通じてご支援させていただきます。本シンポジウムをきっかけとして、今後のワーケーションの取り組みにつきまして、ぜひ積極的にご検討いただけますようお願いを申し上げます。

以上